

市長と語るタウンミーティング実施報告書

担当部	政策経営部
テーマ	コロナ禍における女性
日時	令和4年1月23日（日）午後1時30分～午後2時50分
場所	国立駅前くにたち・こくぶんじ市民プラザオープンスペース
出席者	永見市長、松葉人権・平和担当部長、吉田市長室長、庄司平和・人権・ダイバーシティ推進係主事、金田男女平等・女性支援担当主査
参加者数	13名
主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国立市が小さな市だからこそ、小回りが利いた丁寧な対応ができています。情報格差についてはまだまだ課題。先進的な取り組みをしているが、その制度に結び付けるまでの工夫がもっと必要。 ・ 住まいの支援、箱を用意するということと同時に、そこへ入ってもらうためのマッチングなどについても、居住支援協議会を作って推進して行って欲しい。 ・ 矢川保育園の民営化を始め、次の保育園の民営化も否定されていない。今回エッセンシャルワーカーの重要性がわかったからこそ、その方針を転換してもらいたいと思う。 ・ すごく推進的な活動をされていると思うが、それが市民の方に伝わりにくいという現状があると思う。何か新しい周知、広報の方でやるという予定はあるか？ ・ 駅舎のライトアップに意味があることが分かった。ライトアップする時は、どこかにネーミングを大きく書いた方がいいのではないか。 ・ 女性に限ったことではないのだが、市が事業をする時に、その中で差別的要素を含まざるを得ないような施策のあり方については、極力それを排除して。例えば安易な事業の委託とか、安ければ税金が安上がりになるだろうが、働いている人が適切な賃金で安定した仕事の形態で担っていけるように、市が率先して進める必要があると思っている。 ・ コロナにより保育園、臨時休園。急にかなり長期間臨時休園が続くこともあり、長期間仕事を休まなくてはならず、不安を抱えながら子育てをしている世帯があるということについて伝えたい。 ・ 子どもの学びや多様な育ちをどういう風に考えていったらいいのか、親としてもそうだが、地域の中でそれについて考えていける仕組み、機会を

	<p>設けるきっかけを作ってもらえたらありがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい取り組みを市民にどう広めるかということについて、高校生の意見として聞いてほしい。座談会や広報をしていくことで、関心のある人を少しずつ増やしていき、その取り組みで注目を集めて有名になって、マスコミで取り上げてもらう。それによって、さらに関心のある人や、市でそういった雰囲気を作っていくという好循環を作っていくってほしい。 ・僕らは将来社会を担っていく存在になると思うが、女性問題に関して、高校生の僕たちが持つべき心構えを教えてください。 ・市長の話聞いていて、本当に国立は細かい所をよく考えて、市民と市が組んでやっているなと思った。これが他の市区町村だと かけ離れている関係になっている。市長はどのように、他の市区町村に広めていこうと思うか？ ・行政間が緊張感をもって切磋琢磨していくことが必要と思う。市長がことあるごとに、市や都や国などに赴かれた際に、現状を伝えてほしい。三多摩地域だけでも市長たちがきちんと声をあげて東京都に対して予算要求していくとか、人材要求していくとか、制度設計をきちんとやってくれるように、是非働きかけをして欲しい。
<p>課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・居住支援協議会の立ち上げは必要だが、実効性を担保していくことが課題。 ・学びの保障について。教育委員会にも今日の話伝えて、学びの保障と安全というような問題と関係性という問題をクロスさせながら、どのような形が可能なのかということを検討させてみたい。 ・困難な課題を抱えた女性の現状に対して、国立市は先進的な支援を実施しているが、本来は国や東京都等が主体的な取り組みを実施することが重要。国立市として今後も要望をあげていくことが課題。

<当日の様子>

